

がん防ぐヨウ素剤 共同購入

配布待てない 市民が常備を

原子力災害―わが身守るは自分

横須賀市内の市民団体「放射能から私たちの未来を守る会」(菅沼みづの代表、約七十人)が、放射性汚染による甲状腺がんを防ぐヨウ素剤の共同購入を始める。横須賀市も大量のヨウ素剤を保管しているが、「事故の発生から配布までに時間がかかり、服用の効果が弱まる」と同会。「自分の身は自分で守ろう」と、県内の市民団体が初めて取り組む。(佐藤 浩幸)



横須賀の団体

放射性汚染

「2時間以内に服用」

原子力事故が発生した原因になる。特に、細胞分裂が活発な胎児や子供は恐れがある放射性ヨウ素は体内に入ると甲状腺に蓄積され、がんなどの

米海軍横須賀基地に原子力潜水艦が寄港し、原子燃料加工工場「グローバル・ニュークリ

ヨウ素剤1袋に10錠ずつ入っている

ア・フェニエル・ジャパン(同市内川)がある。ヨウ素剤は二十錠で三百円。京都市の小売薬業組合から取り寄せる。服用方法を保管方法、副作用の問題などの知識が必要のため、購入希望者は原則として同会の会員(会費年間千円)になることが条件となる。同会は一九九九年九月の茨城県東海村のJCO事故をきっかけに、同年十一月に発足した。原子燃料加工工場からの核燃料輸送の監視活動、原子力災害に関する講演会などをやっている。問い合わせは、菅沼さん(046)83360056。

◆ヨウ素剤 放射能を含んでいないヨウ素。これを服用することで甲状腺を飽和状態にして、放射性ヨウ素が入り込まないようにする効果がある。1日1回服用で、1回大人2錠、子供は1錠。事故発生1時間後で85%の抑制効果があるが、8時間後には40%、24時間後には7%に低下する。